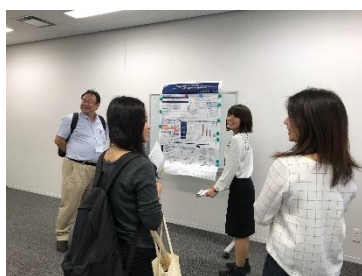


2019年度第3回支部集会【中部支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会
開催日：2019年10月26日（土）
会場：愛知大学名古屋キャンパスL棟
参加者：52名（会員33名・一般19名）



2019年度中部支部集会が10月26日（土）、愛知大学で開催されました。様々な行事が重なる時期ではございますが、52名もの方々に参加いただきました。今回の集会では、口頭発表・ポスター発表・交流ひろば・講演を実施することで、日本語教育を幅広い視点から見ていただくことを目指しました。

前半では、口頭発表3件（うち1件は発表者の都合により辞退）、ポスター発表3件、交流ひろば4件を実施しました。口頭発表は、発表者2名で1会場だけでしたが、当日の参加者のほとんどが口頭発表から参加をしてくださったおかげで、多くの参加者の中で行うことができました。質疑応答の時間には、温かい雰囲気の中でアドバイスやコメントがされていました。ポスター発表、交流ひろばでは、ポスターや作成教材などを見ながら、出展者と参加者が直接に意見交換をしたり、日々の教育上での困り感を共有したりと、積極的な交流の様子が見られました。

後半では、京都日本語教育センター/京都日本語学校校長の春原憲一郎先生にご講演いただきました。「ダイバーシティ（交流）からチャンプルー（混流）へ～もやもやした世界を生きぬくために～」という題目でのお話は、日本近現代史から始まり、ライフスタイルや働き方の変遷、そして、これからの開かれた社会の創出に向けてへと進みました。大変興味深い内容で、参加者からも、日本語教育だけでなく日々の生活での対人コミュニケーションにおいて大変役立つお話が伺えたとの感想が聞かれました。

今回の集会では、ポスター発表・交流ひろばへの出展者の方々への会場設備の情報を十分にお伝えできておらず、ご迷惑をおかけいたしました。臨機応変にご対応いただき、感謝申し上げます。また、会場校である愛知大学の梅田康子先生、大学院生の皆様には多大なご尽力を賜りました。ありがとうございました。

参加者から「中部としての特徴あるテーマに基づいた集会開催希望」という声が挙がっていました。中部の日本語教育における課題を見直し、来年度の集会では、さらに中部らしさが出る内容での企画を検討していきたいと思っております。

（報告者：支部活動委員 川口直巳・近藤有美・林朝子）